



2020年9月2日

アウディ ジャパン株式会社  
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120-598-106  
アウディコミュニケーションセンター

## Audi Q2 をアップデート：数多くのディテールを刷新

- アウディのコンパクトSUVが、さらに印象的なデザインに進化
- 新しいAudi connect サービスとドライバーアシストシステムを採用

(ドイツ本国発表資料) 2020年9月1日 インゴルシュタット：4年前、アウディはトレンドセッター

となる Audi Q2 を発表し、大きな成功を収めました。今回、このコンパクトSUVにアップデートが施され、さらに先進的なキャラクターへと進化を遂げました。新しいヘッドライトを採用したことで、エクステリアはさらに印象的になり、インテリアでは Audi connect サービスとドライバーアシストシステムの内容が拡充されました。街中で人々の視線を集める Audi Q2 は、運転する楽しさにさらに磨きがかかっています。

### 多角形をモチーフにしたデザイン：エクステリア

Audi Q2 は、日常ユースやレジャーで使用できる堅牢なオールラウンドビークルです。このキャラクターは、スポーティ、スリム、そしてパワフルなボディラインに明確に反映されています。このコンパクトSUVのあらゆるディテールには、自信に溢れた存在感が表現されています。

Audi Q2 のデザイナーは、フロントとショルダーラインの特徴となっている多角形のモチーフを、リアエンドにも適用しました。バンパーには、大きな五角形が組み込まれたディフューザーインサートが一体化されています。フロントのデザインも変更され、ヘッドライト下の表面処理がより印象的なものになっています。八角形のシングルフレームの位置はわずかに下げられ、フロントセクションの幅の広さが強調されています。インサートにも、多角形のモチーフが採用されています。advanced 及び S line には、ラジエーターグリルとボンネットの間に、アウディのアイコンモデルである Audi Sport quattro を想起させる、細長いスリットが設けられています。大型のエアインレットも、さらに印象的なデザインの創出に貢献しています。S line のエアインレットは、特に印象的なものになっています。

### 顧客のニーズに対応：LED またはマトリクス LED ヘッドライト

Audi Q2 には LED ヘッドライトが標準装備され、オプションとしてマトリクス LED ヘッドライトの選択が可能です。ヘッドライトモジュールに取り付けられた7個のLEDは、インテリジェントに制御されたハイビームを生成します。この光は、他の道路上の人々を幻惑することなく、路面を明るく照らし出します。ひし形の光学パーツの背後に設置された10個の発光ダイオードがデイトタイムランニングライトとして、さらに7個のLEDがダイナミックインジケーターとして機能します。

リヤライトは、ダイナミックインジケーターの有無にかかわらず、2つのLEDバージョンから選択することができます。マトリクスLEDヘッドライトを選択した場合は、リヤライトにはダイナミックインジケーターも標準装備されます。

このコンパクトSUVのボディカラーには、5つの新色が含まれています。新たに加わったカラーは、アウディとしては初採用となるアップルグリーンに加え、マンハッタングレー、ナバラブルー、アローグレー、ターボブルーです。Cピラーに設置されたブレードは、装備ラインに応じて、ボディ同色、ブラック、グレー、シルバーのいずれかに塗装されます。ボディ下部のアタッチメントは、3つのバージョンから選

択可能です。カラーは、ベーシックバージョンではピテッドブラック、advanced ではマンハッタングレー、S line ではボディ同色となります。

#### **デジタル化：操作系、ディスプレイ、インフォテインメント、Audi connect**

操作系の各機能は、センターコンソールに設置されたロータリープッシュボタン（MMI タッチ）または日常会話に対応したボイスコントロールシステムを介して操作します。Bang & Olufsen プレミアムサウンドシステムは、705 ワットの出力で 14 のスピーカーを駆動します。これは、コンパクト SUV セグメントでは他に類を見ない豪華な装備です。

MMI ナビゲーションプラスには、高速データ通信用の LTE モジュールと、乗員のモバイル機器を接続することができる Wi-Fi ホットスポット機能が含まれています。この最上位のインフォテインメントシステムは、オンライン交通情報を含む Audi connect サービスも提供します。今回、「Audi connect エマージェンシーコール&サービス」及び「Audi connect リモート&コントロール」サービスが新たに追加されました。これにより、ユーザーはリモートで車両をロックしたり、燃料の残量や走行可能距離を確認したりすることができます。ユーザーは、無料の myAudi アプリをスマートフォンにインストールすることによって、これらの機能を利用することができます。MMI システムに新設定されたプライバシーモードを有効にすると、データの転送を無効にすることもできます。

#### **5 種類のパワフルなエンジン：3 種類の TFSI、2 種類の TDI**

Audi Q2 は、パワフルなガソリンエンジンを搭載してドイツ市場で発売されます。1.5 TFSI は、110kW（150PS）の最高出力と 250Nm の最大トルクを発生します。改良が施されたこの 4 気筒エンジンの NEDC サイクルにおける燃料消費量は、わずか 5.4~5.1ℓ/100km で、CO<sub>2</sub> 排出量は 124~116g/km です。低負荷及び低回転域では、効率化システムのシリンダーオンデマンド（COD）機能が作動し、2 番及び 3 番シリンダーを一時的に休止にします。

別の TDI および TFSI エンジンは、年末までに追加される予定です。すべてのエンジンは新しい Euro 6 AP 排ガス基準に適合しています。ディーゼルエンジンのツインドーシングテクノロジーは NOx 排出量を最小限に抑えます。ツインドーシングは、2 つの SCR 触媒コンバーターが連携して機能するもので、1 つはエンジンの直後に配置され、もう 1 つは車両のフロア下に取り付けられています。これらの触媒コンバーターは、それぞれ異なる作動環境をカバーして、お互いの機能を補完します。

1.5 TFSI エンジンを搭載した Audi Q2 は、7 速 S トロニックが標準装備です。

#### **Audi Q2 のキャラクター：スポーティで俊敏**

コンパクト SUV の Audi Q2 は、標準仕様でも俊敏な走りを提供します。ステアリング操舵角が増加するにつれて、よりダイレクトなギアレシオに変化するプログレッシブステアリングは、標準装備されています。このシステムは、車庫入れ時やワイディングロードの走行時に、ハンドリングとダイナミクスを向上させます。

オプションで、車高を 10mm 低下させるスポーツサスペンションも用意されています。さらに、ダンパーコントロール付きサスペンションを装備することも可能です。このサスペンションは、快適な乗り心地から、スポーティな走りまで、明確に個性の異なる設定を選択することができます。このシステムには、個別オプションとしてもオーダーすることができるアウディドライブセレクト ダイナミックハンドリングシステムが含まれています。約 150mm の最低地上高を備えた Audi Q2 は、整備されたオフロードの走行にも対応し、ESC スタビリゼーションコントロールには、オフロードモードが追加されています。

### 上位セグメントに準じるテクノロジー：ドライバーアシストシステム

Audi Q2 は、上位セグメントと同等のドライバーアシストシステムを搭載しています。標準装備されるオーディプレセンスフロントシステムは、レーダーを使用して車両前方を監視し、事故を回避したり、事故の程度を軽減したりします。車線逸脱警報も標準装備しています。オプションのシステムは、「ドライブ」、「セーフティ」、「パーク」パッケージに分類されています。「パーク」パッケージには、リバースカメラとパーキングシステムプラスが含まれています。アップグレードオプションとして、駐車スペースに車両を自動的に出し入れできるパークアシストを装備することも可能です。「セーフティ」パッケージには、サイドアシスト、リヤクロストラフィックアシスト、オーディプレセンスベーシック、オーディプレセンスリヤシステムが含まれます。

「ドライブ」パッケージには、MMI ナビゲーションプラスとの組み合わせで利用可能な新しいハイエンドシステム、アダプティブクルーズアシストに加え、オーディバーチャルコックピット、S トロニックが含まれます。アダプティブクルーズアシストの機能を使用すると、多くの状況で、同一車線内における加速、減速、ステアリング操舵といった主要な運転操作を、システムに委ねることができます。ドライバーがステアリングホイールを握っているかどうかを検知するため、ステアリングホイールには、静電容量式のタッチセンサーが組み込まれています。アダプティブクルーズアシストは、すべての速度範囲で作動します。カメラベースの道路標識認識機能と組み合わせると、例えば、速度制限といった標識を認識すると、車両が自動的に減速します。制限速度が解除されると、車両は再び加速します。

\* 2021 年前半日本市場導入予定、価格は未定です。